保育所の自己評価（令和7年度）

以下の各項目について振り返り、３）２）１）のうち該当する基準を ○（マル）で囲んで下さい。評価項目は全部で20項目です。解答欄の右に示す評価の着眼点を参照のうえ、回答して下さい。

Ａ－１　保育内容

Ａ－１－（１）　指導計画の作成

Ⓐ① A-1-(1)-①　保育所の理念、保育の方針や全体的な計画に基づき、指導計画を作成している。

３）　している	□指導計画は、保育所の理念、保育の方針や全体的な計画に基づいて作成している。 □指導計画は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して作成している。 □指導計画は、保育に関わる職員が複数参画して作成している。 □指導計画は、定期的に評価を行い、次の作成に生かしている。
②　しているが、十分ではない	
１）　していない	

Ａ－１－（２）　環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開

Ⓐ② A-1-(2)-①　生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。

③　している	□室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境は、常に適切な状態に保持している。 □保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 □家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 □一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 □食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 □手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。
２）　しているが、十分ではない	
１）　していない	

Ⓐ③ A-1-(2)-②　一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。

③　している	□子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 □子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 □自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 □子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 □子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 □せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。
２）　しているが、十分ではない	
１）　していない	

Ⓐ④ A-1-(2)-③　子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。

③　している	□一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 □基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 □基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 □一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 □基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。
２）　しているが、十分ではない	
１）　していない	

Ⓐ⑤ A-1-(2)-④　子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。

③　している	□子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 □子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 □遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 □戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 □生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 □子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 □社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 □身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 □地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 □様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。
２）　しているが、十分ではない	
１）　していない	

Ⓐ⑥ A-1-(2)-⑤　乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

③　している	□０歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 □０歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 □子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。 □０歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 □０歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 □０歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。
２）　しているが、十分ではない	
１）　していない	

Ⓐ⑦ A-1-(2)-⑥　3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

③　している	□一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 □探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 □子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 □子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 □保育士等が、友だちとの関わりの仲立ちをしている。 □様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 □一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。
２）　しているが、十分ではない	
１）　していない	

Ⓐ⑧ A-1-(2)-⑦　3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

③　している	□３歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 □４歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 □５歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。 □子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。
２）　しているが、十分ではない	
１）　していない	

Ⓐ⑨ A-1-(2)-⑧　障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

３）　している	□建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。 □障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 □計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 □子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 □保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 □必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 □職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 □保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。
２）　しているが、十分ではない	
１）　していない	

Ⓐ⑩ A-1-(2)-⑨　それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

３）　している	□１日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 □家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 □子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 □年齢の異なる子どもが一緒に過ごすことに配慮している。 □子どもの在園時間や生活リズムに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 □子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 □担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している
２）　しているが、十分ではない	
１）　していない	

A⑪ A-1-(2)-⑩　小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。

3）　している	□計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 □子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 □保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 □保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 □施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。
2）　しているが、十分ではない	
1）　していない	

A－1－（3）　健康管理

A⑫ A-1-(3)-①　子どもの健康管理を適切に行っている。

3）　行っている	□子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 □子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 □子どもの保健に関する計画を作成している。 □一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 □既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 □保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 □職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 □保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。
2）　行っているが、十分ではない	
1）　行っていない	

A⑬ A-1-(3)-②　健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。

3）　している	□健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 □健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 □家庭での生活に生かされ、保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。
2）　しているが、十分ではない	
1）　していない	

A⑭ A-1-(3)-③　アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。

3）　行っている	□アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 □慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 □保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 □食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 □職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 □他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。
2）　行っているが、十分ではない	
1）　行っていない	

A－1－（4）　食事

A⑮ A-1-(4)-①　食事を楽しむことができるよう工夫をしている。

3）　している	□食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 □子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 □子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 □食器の材質や形などに配慮している。 □個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 □食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 □子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 □子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。
2）　しているが、十分ではない	
1）　していない	

A⑯ A-1-(4)-②　子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。

3）　している	□一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 □子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 □残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 □季節感のある献立となるよう配慮している。 □地域の食文化や行事食などを取り入れている。 □調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 □衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。
2）　しているが、十分ではない	
1）　していない	

A－2　子育て支援

A－2－（1）　家庭との緊密な連携

A⑰ A-2-(1)-①　子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。

3）　行っている	□連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 □保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 □様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 □家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。
2）　行っているが、十分ではない	
1）　行っていない	

A－2－（2）　保護者等の支援

A⑱ A-2-(2)-①　保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。

3）　行っている	□日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 □保護者等からの相談に応じる体制がある。 □保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 □保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 □相談内容を適切に記録している。 □相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。
2）　行っているが、十分ではない	
1）　行っていない	

A⑲ A-2-(2)-②　家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。

3）　努めている	□虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 □虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 □虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 □職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 □児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 □虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 □マニュアルにもとづく職員研修を実施している。
2）　努めているが、十分ではない	
1）　努めていない	

A－3 保育の質の向上

A－3－（1）　保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）

A⑳ A-3-(1)-①　保育士等が主体的に保育実践の振り返りを行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。

3）　努めている	□保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。 □自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 □保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 □保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 □保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 □保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。
2）　努めているが、十分ではない	
1）　努めていない	

以上